群馬県済生会前橋病院
公的医療機関等２０２５プラン

平成２９年９月　策定
令和　５年７月　一部改定

【群馬県済生会前橋病院の基本情報】

◆医療機関名　：　社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部　群馬県済生会前橋病院

◆開設主体　：　社会福祉法人 恩賜財団 済生会

◆所在地　：　群馬県前橋市上新田町５６４－１

◆許可病床数　：　３２３床
（病床の種別）
・一般病床　：　２８７床（完全無菌室３床、準無菌室２０床含む）
・ハイケアユニット　：　１４床
・緩和ケア　：　１６床
・人間ドック　：　６床

（病床機能別）
・高度急性期病床　：　６１床
・急性期病床　：　２４０床
・回復期病床　：　２２床

◆稼働病床数：３２３床
（病床の種別）
・一般病床　：　２８７床（完全無菌室３床、準無菌室２０床含む）
・ハイケアユニット　：　１４床
・緩和ケア　：　１６床
・人間ドック　：　６床

（病床機能別）
・高度急性期病床　：　６１床
・急性期病床　：　２４０床
・回復期病床　：　２２床

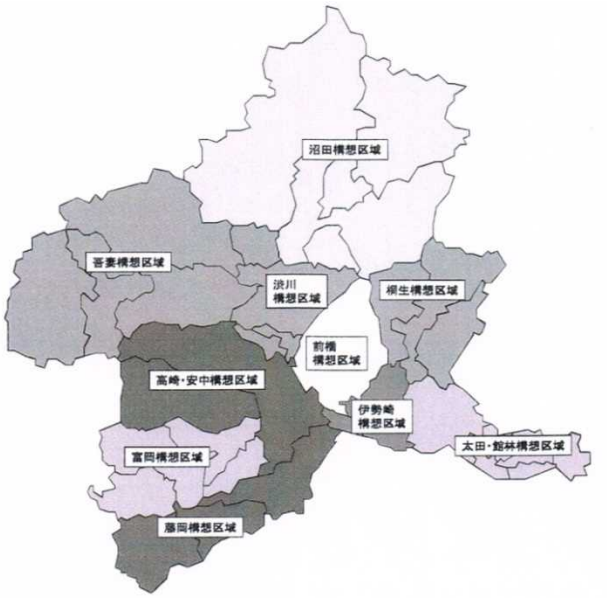
◆診療科目：
内科、血液内科、腎臓リウマチ内科、人工透析内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、心臓内科、血管内科、小児科、外科、胃腸外科、大腸・肛門外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、泌尿器科、眼科、放射線科、麻酔科、ペインクリニック内科、ペインクリニック外科、病理診断科、緩和ケア内科（以上２９標榜科目）

◆職員数　：　６６２名（非常勤医師、パート職員を除く）
・医師　：　６７名（うち研修医１２名）
・看護職員　：　３９５名（うち看護補助者３６名）
・専門職　：　１１４名（医療技術系職員）
・事務職員　：　８６名（うちＭＳＷ８名）

令和５年７月末現在

【１．現状と課題】

①前橋構想区域の現状と課題



◆地域の人口及び高齢化の推移

前橋構想区域は、県庁所在地である前橋市の１市から構成され、県中央部に位置している。

面積は３１１．６４km^2 である。

医療施設は、平成２９年５月現在、病院２１施設、有床診療所２２施設となっており、在宅療養支援病院については２施設、在宅療養支援診療所は７５施設である。

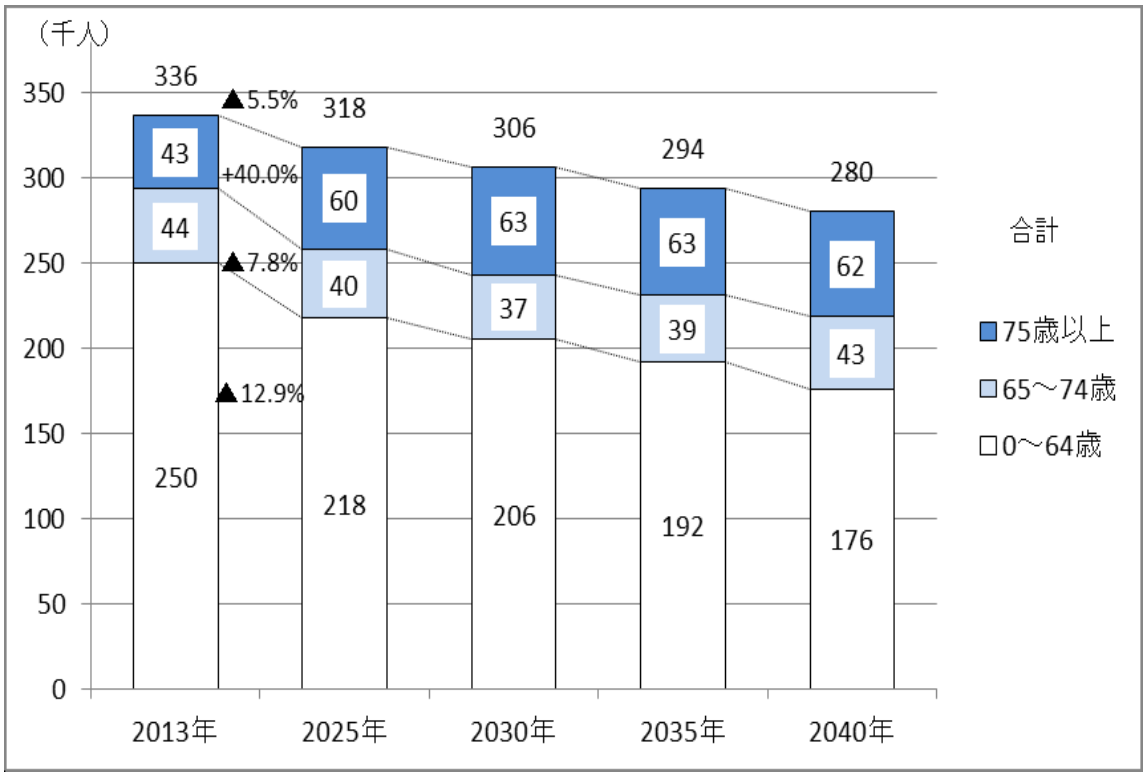
前橋構想区域の総人口は、「前橋構想区域における将来推計人口の推移」では、平成２７年（２０１５年）に、３３６，１５４人だった人口が、平成３７年（２０２５年）には、３１７，８９７人に減少する。

更に、平成５２年（２０４０年）には２８０，１７９人までに減少すると推測されている。

一方、７５歳以上の人口は、年々増加傾向にあるが、平成４２年（２０３０年）をピークに減少に転じる見込みである。

高齢化率（６５歳以上の人口割合）は２０１５年では２７．７%であったが、２０２５年には３１．５%、更に２０４０年には３７．３%にまで増加すると見込まれている。

前橋構想区域における将来推計人口の推移



②　構想区域の課題

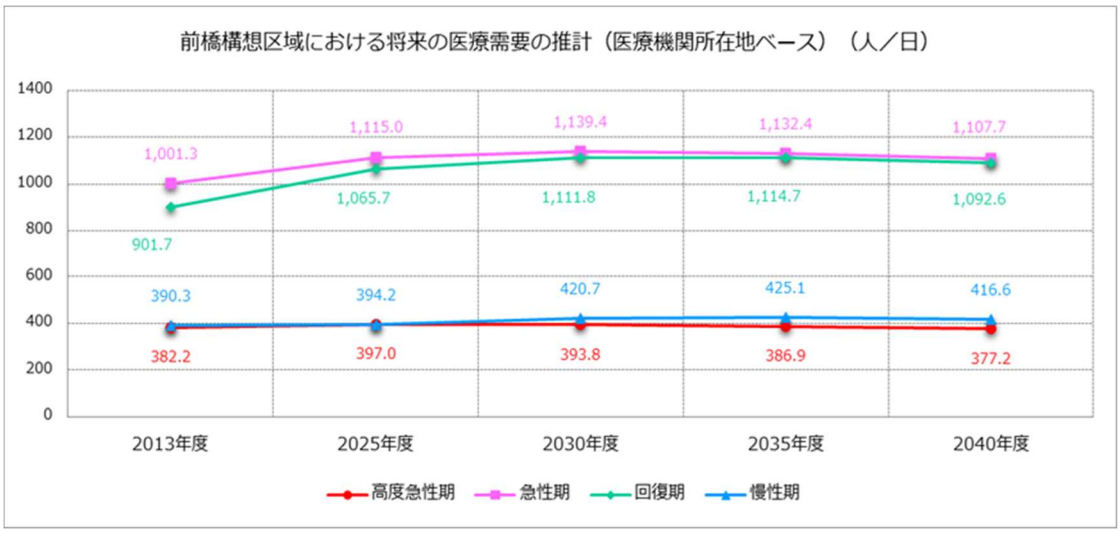
◆地域の医療需要の推移

国の推計によると、２０２５年度までに医療機能別の医療需要は、高度急性期から慢性期までの全ての医療機能で増加すると言われている。

特に回復期の医療需要の増加率が最も高く、２０１３年度と比較すると、１８．１%の増加が見込まれている。

「前橋構想区域における将来の医療需要の推計」に見るように、２０４０年度までの医療需要を見ると、高度急性期、急性期は２０３０年度頃にピークを迎えるが、回復期、慢性期については２０３５年度頃がピークであると見込まれている。

〔資料〕厚生労働省「必要病床数等推計ツール



２０２５年における前橋構想区域の入院患者の受療動向は、「前橋構想区域における２０２５年の患者の受療動向」に見られるように、高崎・安中構想区域との間で流入、流出が多く、次いでの流入は渋川構想区域、流出は伊勢崎構想区域となっている。医療機能別に見ても、この区域との間での流入、流出が多くなると考えられる。

前橋構想区域における2025年の患者の受療動向　（人／日）

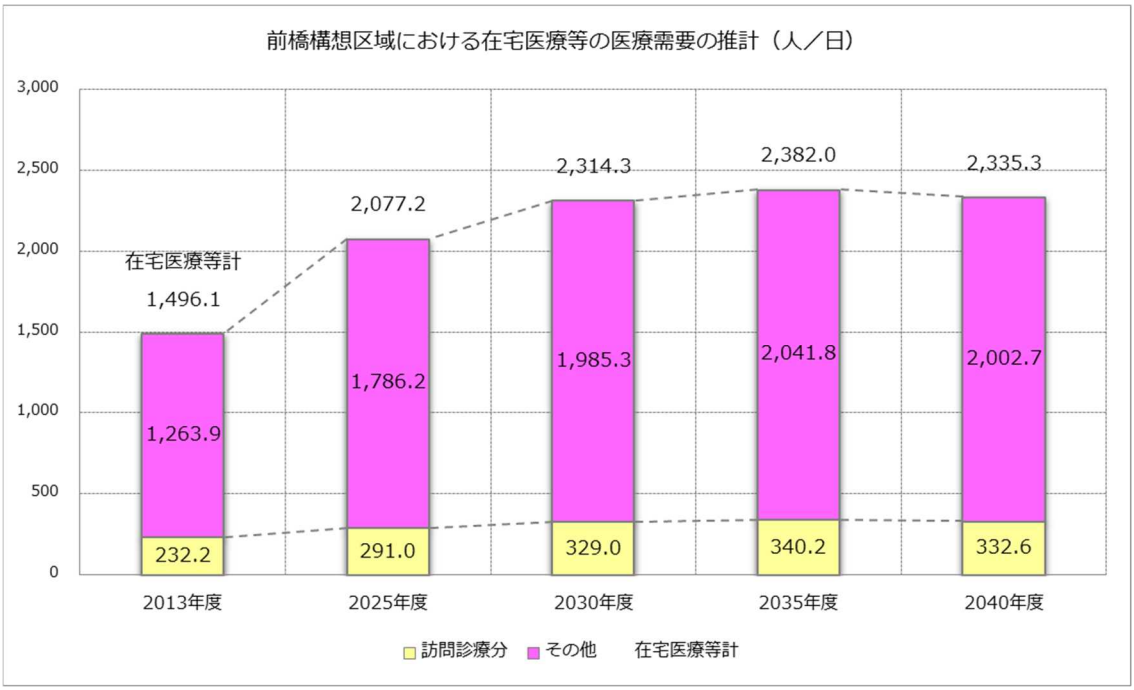
		群馬県内										栃木県		埼玉県		流出入計
		前橋	渋川	伊勢崎	高崎・安中	藤岡	富岡	吾妻	沼田	桐生	太田・館林	県南	両毛	利根	北部	
高度急性期	流入	192.4	33.4	27.5	58.3			10.7		16.4	11.6				15.1	204.6
	流出		11.5		12.5											40.9
急性期	流入	661.3	94.1	59.4	135.8			21.4	18.7	34.5	22.3				26.1	453.7
	流出		15.6	30.6	40.8											113.5
回復期	流入	690.5	91.1	48.2	107.0			15.3	15.2	25.4	17.2				18.7	375.2
	流出		18.6	53.5	63.3			27.1								193.3
慢性期	流入	280.4	23.7	16.9	34.1					10.6						113.8
	流出		33.5	28.8	138.8					24.1						245.5
計	流入	1,824.5	242.2	152.0	335.2	22.2	17.4	－	47.5	86.9	－		10.9		－	1,147.3
	流出		79.2	－	255.4			30.4		42.5	20.4					593.2

※　医療需要の流入又は流出が10人／日未満の構想区域の状況は、個人情報保護の観点から推計ツール上、表示されない。

※※　－　計を表示することにより、伏せられている各医療機能の10人／未満の患者数が計算できる場合は、個人情報保護の観点から合計を表示しない。

〔資料〕厚生労働省「必要病床数等推計ツール

また、在宅医療等の医療需要は、「前橋構想区域における在宅医療等の医療需要の推計」に見られる様に、２０２５年度には２，０７７．２人／日となり、２０１３年度比較して３８．８%増加すると見込まれている。ピークとなる２０３５年度頃には、２０１３年度と比較すると、５９．２%増加すると推計されており、２０４０年に於いても医療需要は引き続き高い水準を継続するものと見込まれている。



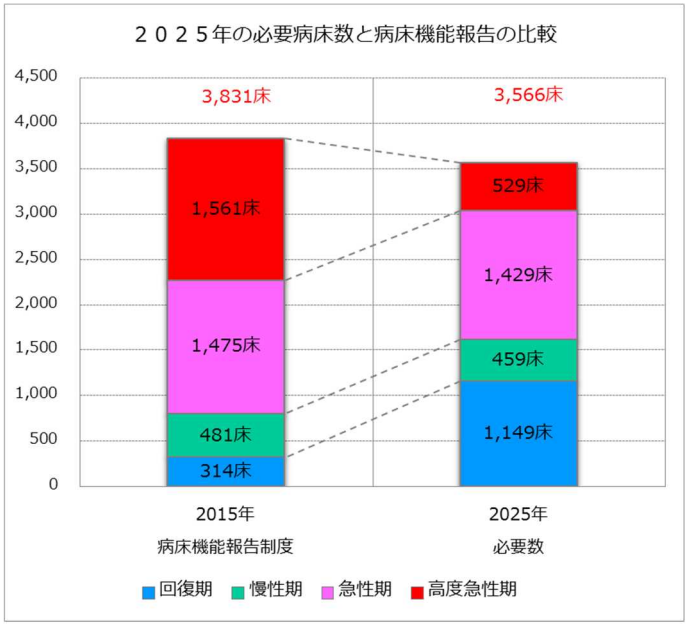
〔資料〕　厚生労働省「必要病床数等推計ツール」

在宅医療等の訪問診療分は「必要病床数推計ツール」を基に群馬県医務課が推計

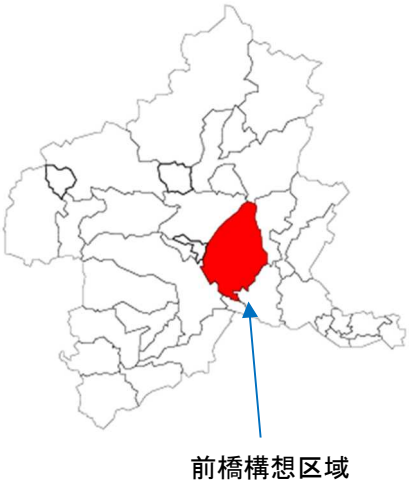
◆４機能ごとの医療提供体制の特徴

他の構想区域との役割分担を踏まえ、国の推計方法に基づいて推計した「２０２５年の必要病床数と病床機能報告の比較」では、高度急性期５２９床、急性期１，４２９床、回復期１，１４９床、慢性期４５９床となり、合計で３，５６６床となっている。

現状では、高度急性期、急性期医療を担う医療機関が多い一方、回復期医療を提供する医療機関が不足している。慢性期については、在宅医療等を含めた医療需要の増加に対応する必要がある。今後は、病床機能報告と比較して、回復期病床への転換等によりバランスのとれた病床整備や受け皿となる在宅医療等の充実を図る必要がある。



〔資料〕群馬県医務課



◆地域の医療需要の特徴

高度急性期及び急性期については、一定の患者流入、流出が見られる高崎・安中構想区域や渋川構想区域等の各構想区域との役割分担を踏まえた上で、連携強化に取り組む必要がある。

地域完結型の医療への転換の為には、各医療機関の役割の明確化を図り、医療機関相互が連携し、医療資源の効率的活用に取り組まなければならない。

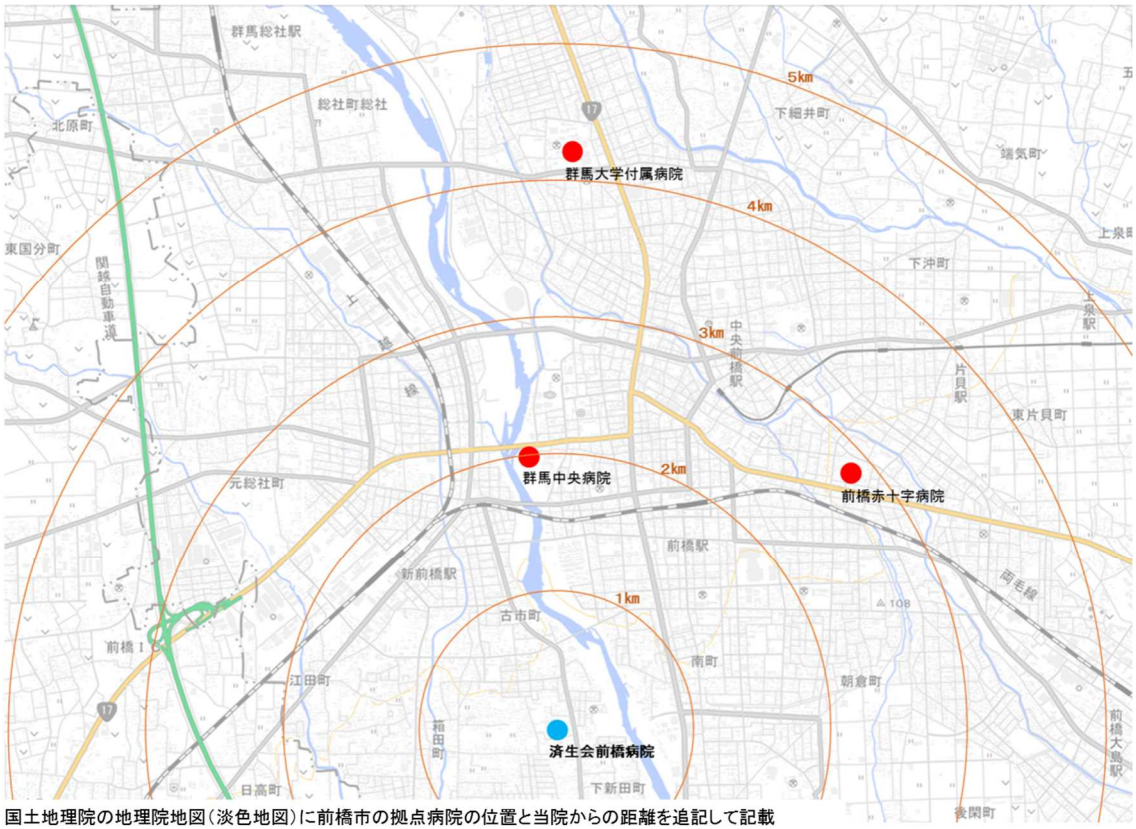
また、がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、認知症などは、２０２５年度の医療需要の増加が見込まれる。特に、認知症等を含む精神疾患に身体疾患を合併する患者への医療提供のため、一般の医療機関と精神科医療機関による診療協力体制等の構築が必要となる。

◆複数の地域中核病院

前橋構想区域には、半径５km圏内に地域の中核病院が大学病院を含めて４病院ある。

医療療機能は、一部高度急性期を含む急性期が主で、中心となる診療科も大学病院を除くと概ね重複している。

病院名	地域医療支援病院	災害拠点病院	がん診療連携病院	届出病床数（人間ドック含む）
済生会前橋病院	**○**	**地域**	**推進**	**３２３床**
群馬大学附属病院	－	地域	中核	７３１床
前橋赤十字病院	○	基幹	拠点	５５５床
群馬中央病院	○	地域	推進	３３３床



国土地理院の地理院地図（淡色地図）に前橋市の拠点病院の位置と当院からの距離を追記して記載

平成２７年度の診断群（ＭＤＣ）分類の占有率は、「群馬県内病院の２０１５年度ＭＤＣ別患者数」により、前橋構想区域内の４病院の合計数で比較すると、前橋赤十字病院（３４．４%)、群馬大学附属病院（３１．２%)、群馬中央病院（１８．２%)、済生会前橋病院（１６．２%）と当院が最も少ない状況にある。

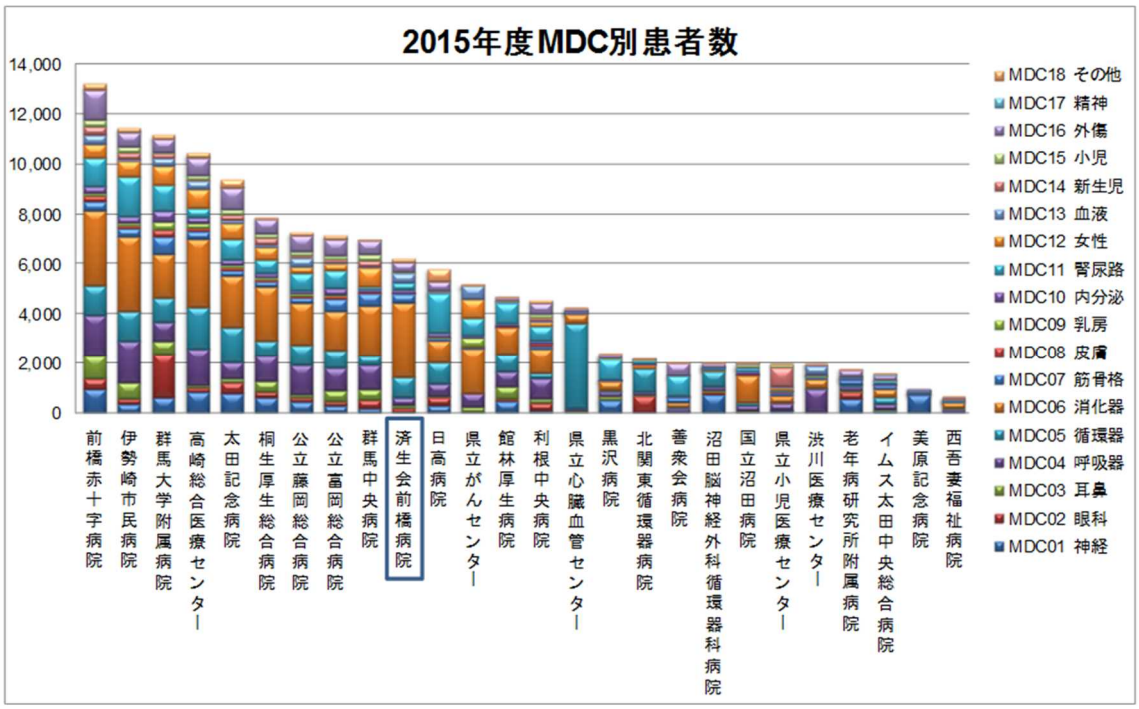
この要因としては、当院以外の病院では全て産婦人科を標榜しており、この患者数が７５０人～１，０００人と比較的多いことも考えられる。

推計によると、２０２５年までの医療需要は増加して行き、特に回復期は１．２倍近く増加する。必要病床数は、回復期病床が２０１５年で３１４床、２０２５年が１，１４９床となり、８３５床が不足する。

一方で、高度急性期と急性期の合計病床数は、２０１５年が３，０３６床、２０２５年では、１，９５８床となり、１，０７８床が過剰となる。

この高度急性期と急性期病床の過剰及び回復病床の不足が、前橋構想区域の最大の課題と言える。

群馬県内病院の２０１５年度ＭＤＣ別患者数



③自施設の現状

◇当院の理念と基本方針

【理念】　愛と希望

【使命】　済生（国民の生(いのち)を救うこと）の心のもとに医療・福祉の充実のため弱者救済事業を推進し、社会の発展に尽くします。

【基本方針】

一、私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、公平・安全な医療を提供します。

一、私たちは、地域医療機関との連携を深め、中核病院として地元の皆様に必要とされる医療を提供します。

一、私たちは、医療人としての誇りと責任を持ち、医療の質の向上・教育・研修に取り組みます。

一、私たちは、互いに協力・信頼し、感謝する心でチーム医療に取り組みます。

◇当院の診療実績

当院の診療実績は、急性期一般入院料（２８７床)、ハイケアユニット入院医療管理料（１４床)、緩和ケア病棟入院料（１６床）及び人間ドック（６床）の計３２３床の病床で運用している。

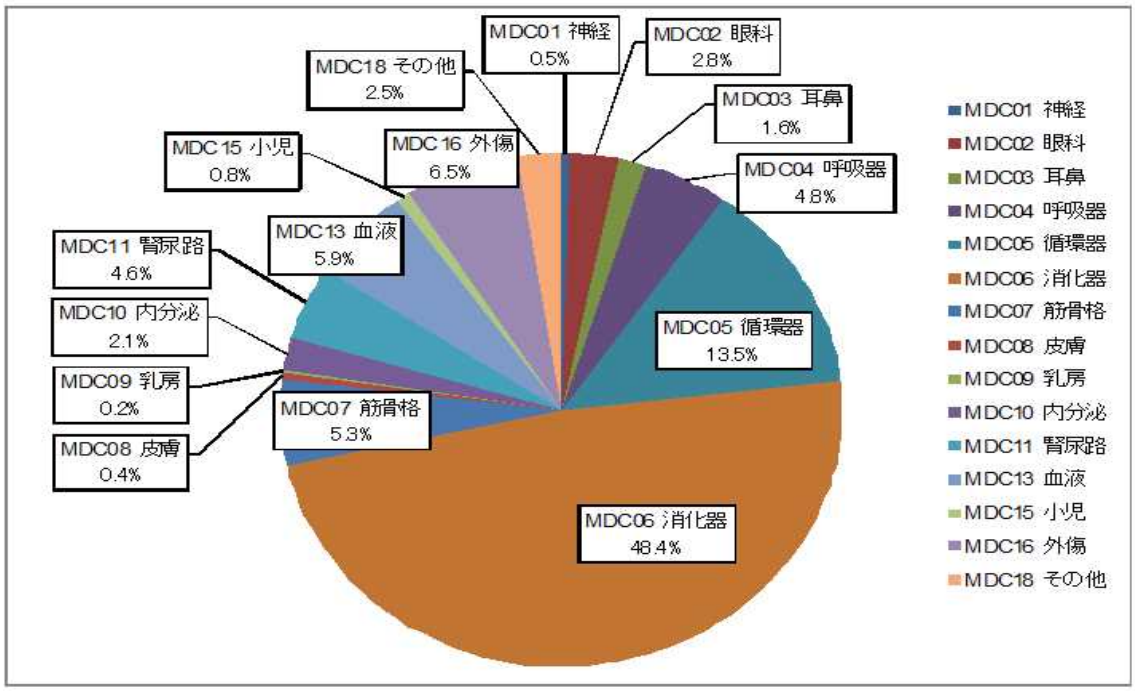
平成２８年度の平均在院日数は１１．８日、病床稼働率は８１．５%、重症度、医療・看護必要度（７対１病床）が３０．４%である。

また、病床機能については、３２３床の内、白血病治療センターの４７床と、ハイケアユニット病床１４床を合わせた６１床が高度急性期病床、緩和ケア病床と人間ドックの病床の２２床を回復期病床、その他の２４０床を急性期病棟としている。

平成２８年度の診療科別診断群（ＭＤＣ）分類の占有率は、「当院のＭＤＣ別患者割合」に見るように、消化器系疾患（４８．４%)、循環器系疾患（１３．５%)、外傷（６．５%)、血液系疾患（５．９%)、筋骨格系疾患（５．３%）の順となっている。

当院の特徴でもある、肝・胆・膵の分野においては、内科、外科共に紹介患者が多く、病院全体の約半数がこの消化器系疾患である。特に外科の腹腔鏡手術については、全国でも屈指の手術件数を誇っている。

当院のＭＤＣ別患者割合



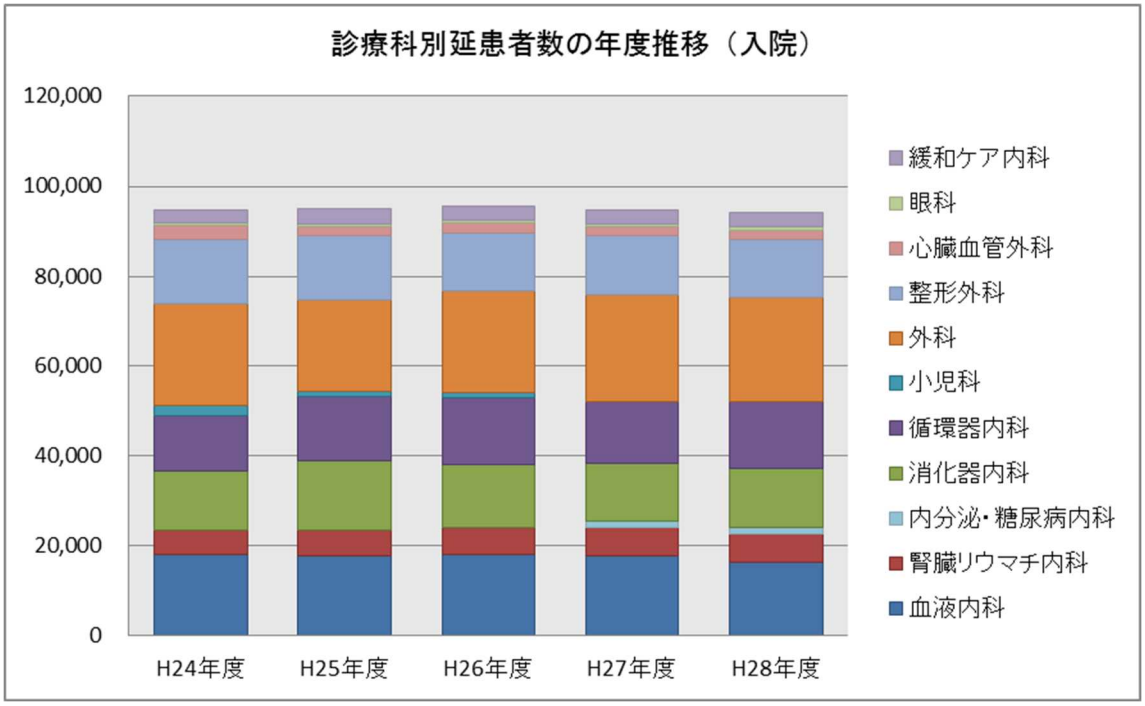
入院患者数については、「診療科別入院患者数」に見るように、病院全体として、延べ入院患者数は、減少傾向にある。

ここ５年間の要因としては、心臓血管外科医師が１人体制に減員となったことや、常勤の小児科医師がいなくなったことが上げられる。

しかし、平成２７年度より、内分泌・糖尿病内科の常勤医師の確保により、多少の増加には繋がっている。

診療科別入院患者数

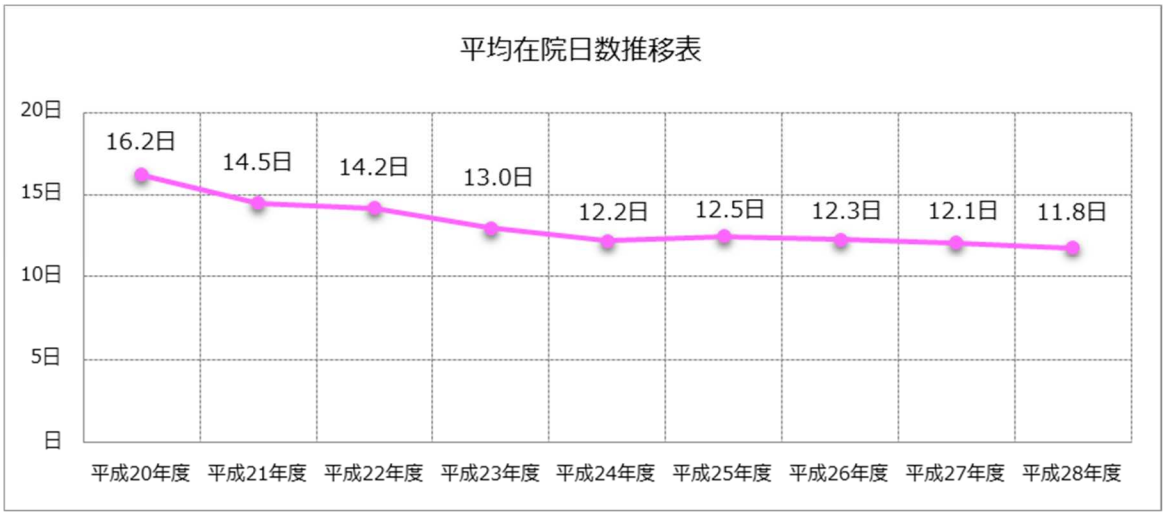
区分	H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度	
	延患者	1日平均	延患者	1日平均	延患者	1日平均	延患者	1日平均	延患者	1日平均
血液内科	17,994	49.3	17,844	48.9	18,142	49.7	17,674	48.3	16,316	43.1
腎臓リウマチ内科	5,636	15.4	5,606	15.4	5,892	16.1	6,355	17.4	6,223	15.9
内分泌・糖尿病内科	－	－	－	－	－	－	1,401	3.8	1,449	3.6
消化器内科	13,092	35.9	15,303	41.9	14,040	38.5	12,774	34.9	13,205	32.7
循環器内科	12,194	33.4	14,246	39.0	14,838	40.7	13,856	37.9	14,831	37.2
小児科	2,183	6.0	1,150	3.2	1,140	3.1	－	－	－	－
外科	22,833	62.6	20,795	57.0	22,637	62.0	23,996	65.6	23,448	57.7
整形外科	14,261	39.1	14,109	38.7	12,991	35.6	13,055	35.7	12,814	32.7
心臓血管外科	3,036	8.3	1,873	5.1	2,151	5.9	1,995	5.5	1,978	5.0
眼科	703	1.9	717	2.0	725	2.0	611	1.7	667	1.3
緩和ケア内科	2,893	7.9	3,381	9.3	3,129	8.6	3,106	8.5	3,341	8.8
全科合計	94,825	259.8	95,024	260.3	95,685	262.2	94,823	259.1	94,272	257.6



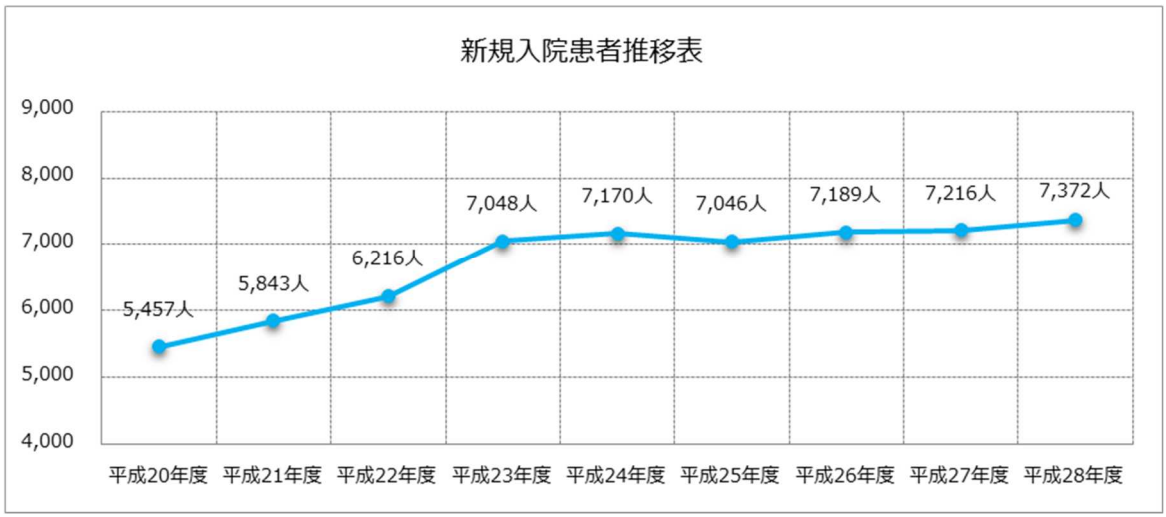
次に、平均在院日数については、「平均在院日数推移表」のとおり、ここ９年間でも４．４日の短縮となっている。

これにより、「新規入院患者数推移表」のとおり、実患者数は９年前に比べ、１，９１５人も増加しているにも関わらず、延入院患者数が減少することにより、病床稼働率が伸び悩んでいる状況である。

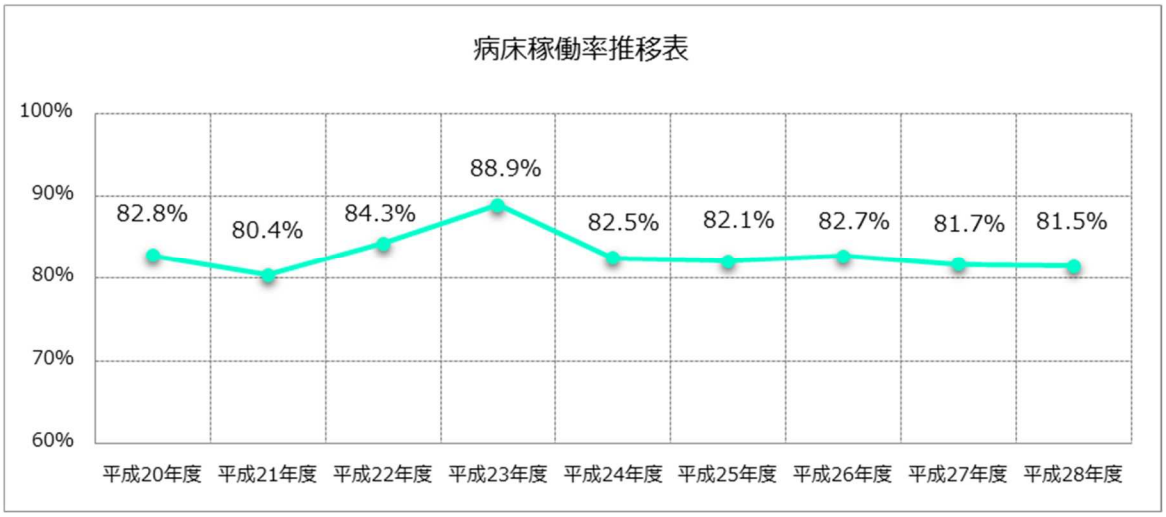
平均在院日数推移表



新規入院患者数推移表

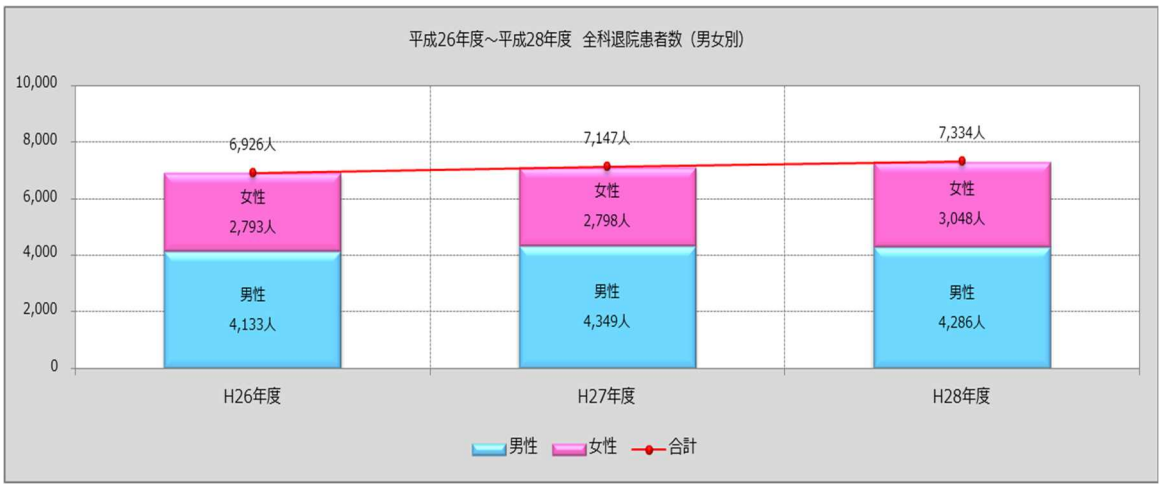


病床稼働率推移表



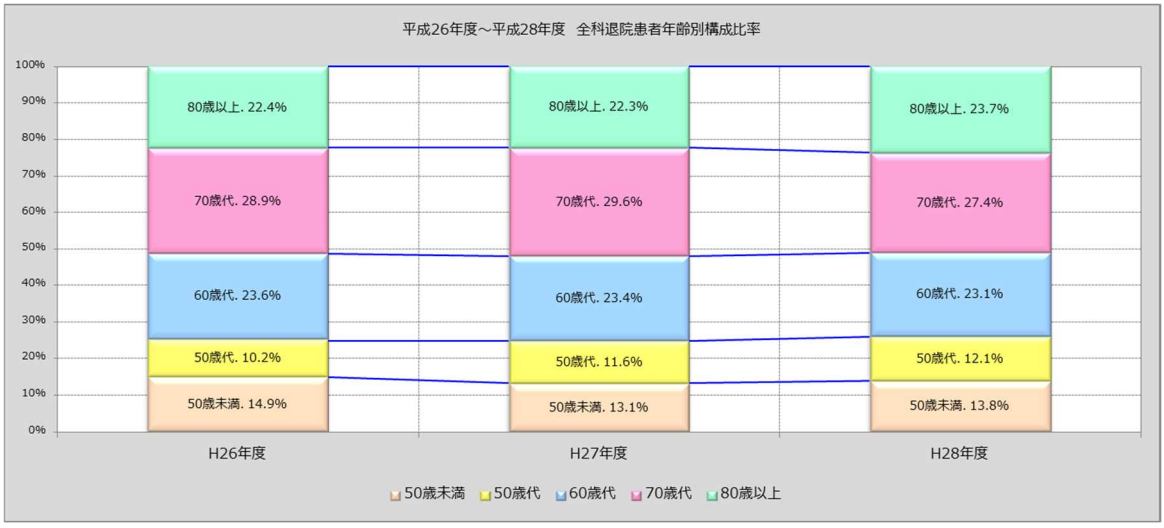
次に当院の患者層については、「過去３年間の男女別退院患者数」により、男性の患者が減少し、女性の患者が増加傾向にある。
これは、当院の特徴の一つである、最大の占有率である消化器系の内科・外科での男性患者の減少が多いことが上げられる。
しかし、外科と循環器内科に於いては、女性患者が増加しており、全体としては年々増加傾向にある。

過去３年間の男女別退院患者数



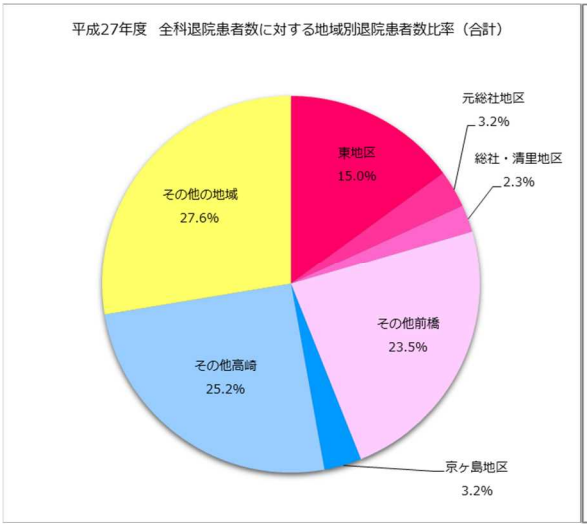
患者の年齢構成については、やはり高齢化に伴い、消化器内科、循環器内科、腎臓リウマチ内科、内分泌・糖尿病内科では、８０歳以上の患者の構成比が年々増加しており、７０歳代の患者層が減少している。
また、６０歳以下の年齢層にはあまり変化は見られないが、外科においては６０歳代の患者が増加している。
血液内科、整形外科については年齢層にはあまり変化は見られない。

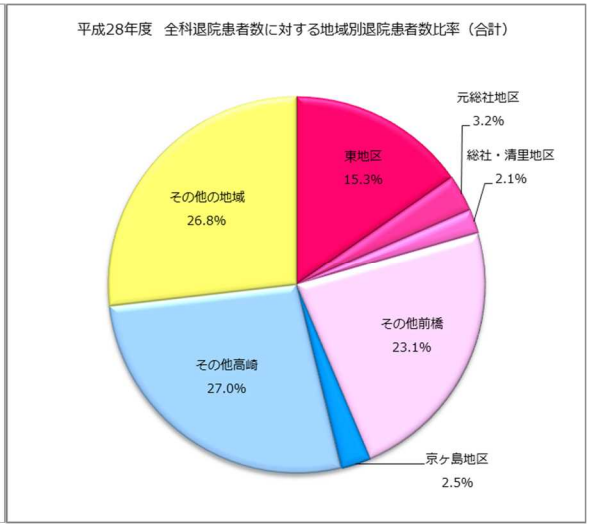
過去３年間の退院患者年齢構成



地域別の退院患者の動向については、当院の設置場所である東地区については、１５．３％とあまり変化はないが、前橋市以外からの患者の流入が多くなって来ている。
この要因としては、当院が専門性の高い医療の提供に心掛けていることから、血液内科や外科等、他の地域からの紹介患者も数多く見られることによる。

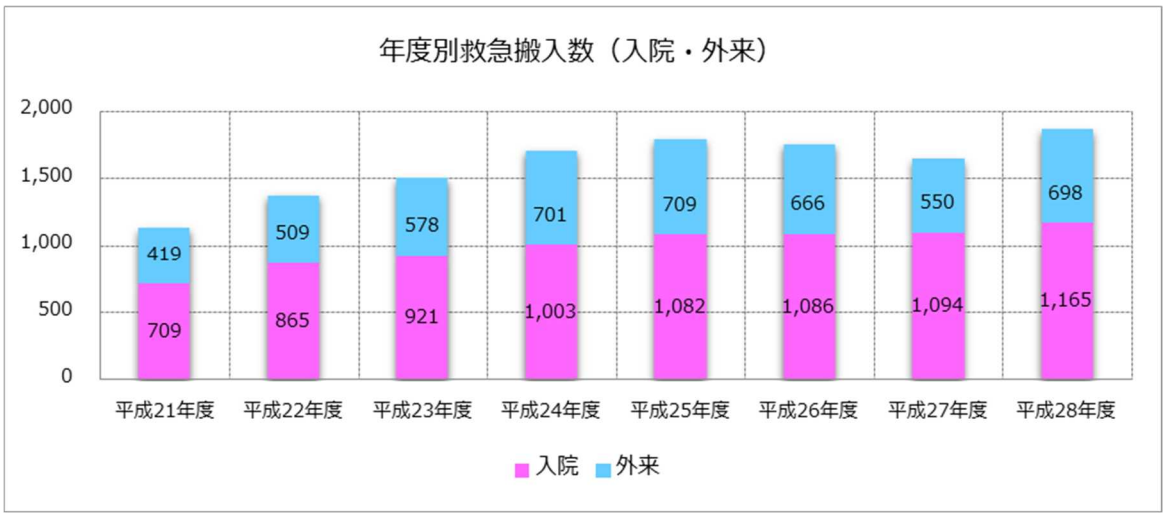
地域別退院患者数比率推移



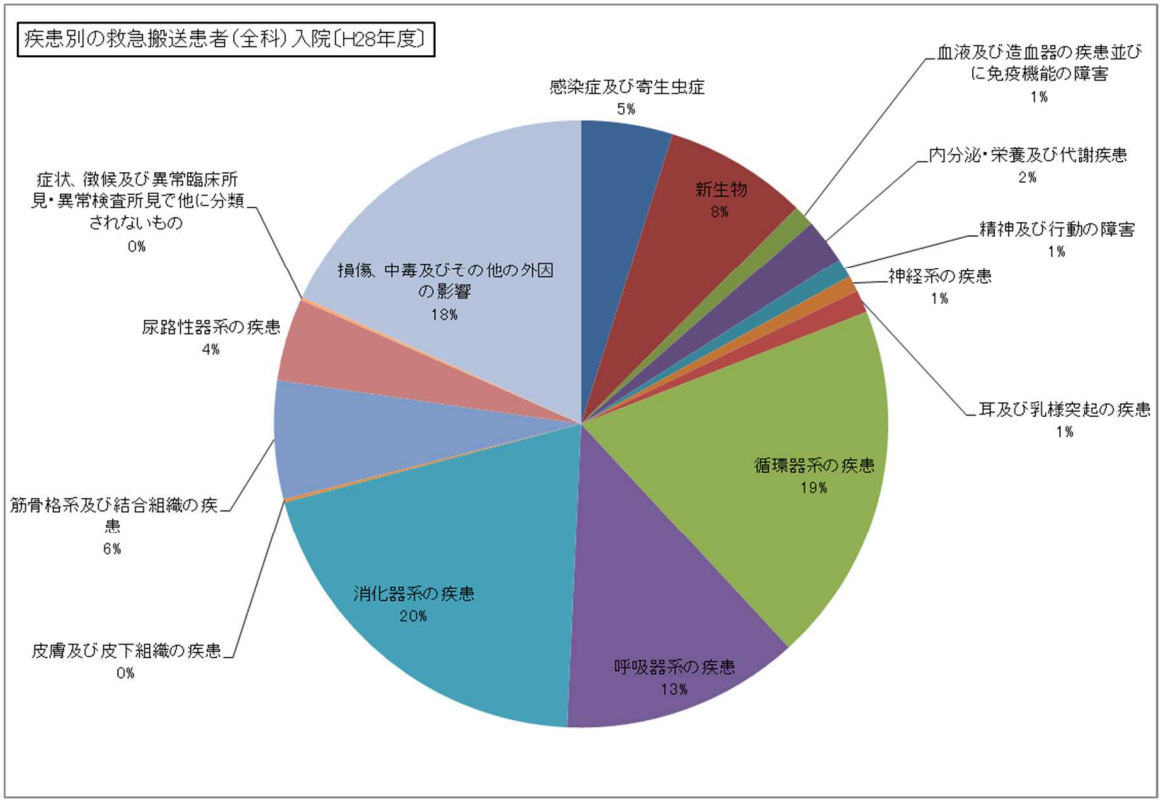


救急患者については、こちらも年々増加しており、入院に繋がるケースは「平成２８度疾患別救急搬送患者割合（入院）」に見るように、循環器系、消化器系、呼吸器系疾患が最も多く、合わせて過半数を超えている。
救急の外来患者について、「平成２８年度疾患別救急搬送患者割合（外来）」のとおり損傷・中毒及びその他の外因の影響によるものが最も多い。

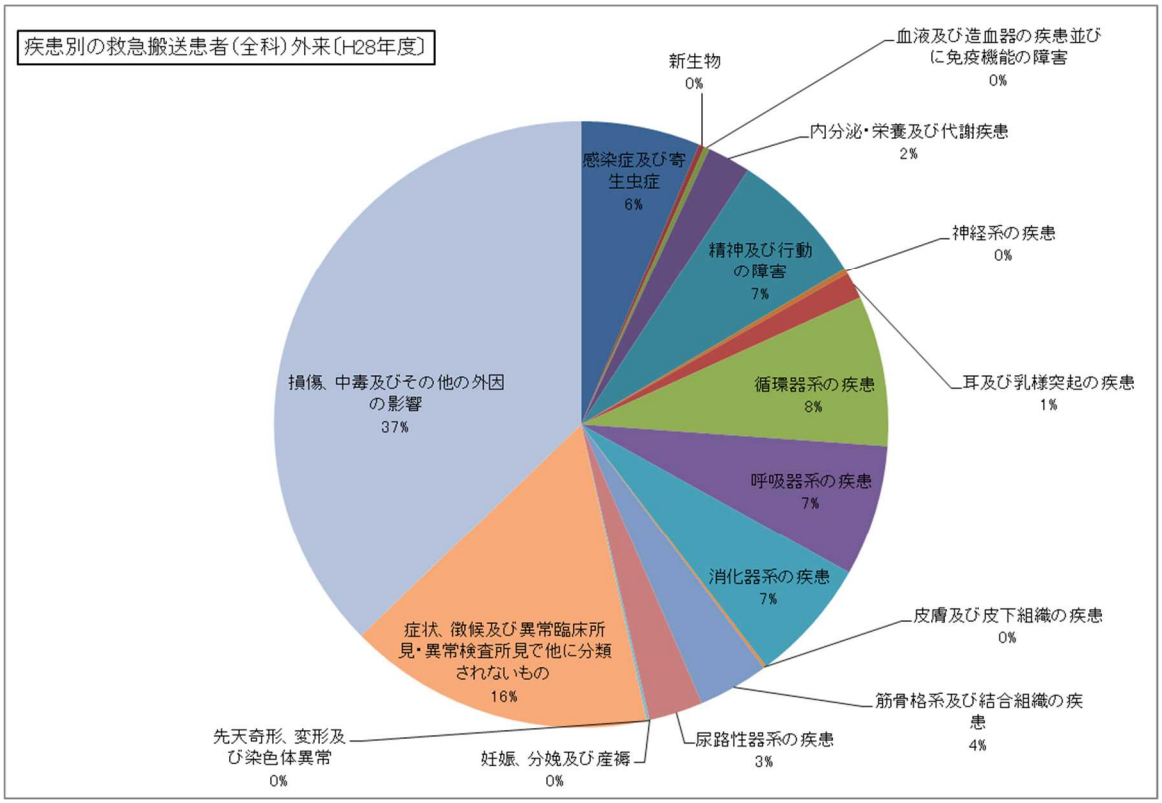
救急患者統計



平成２８年度疾患別救急搬送患者割合（入院）



平成２８年度疾患別救急搬送患者割合（外来）



◇当院の職員数

令和５年７月現在

職　　種	人　員	備　考
・医師	６７人	（内研修医１２人）
・看護師	３５９人	（パート職員含む）
・看護補助者	３６人	（パート職員含む）
・薬剤師	２２人	（パート職員含む）
・臨床検査技師	２９人	（パート職員含む）
・臨床工学技士	１５人	
・診療放射線技師	１４人	
・管理栄養士	１０人	
・栄養士	０人	
・理学療法士	１２人	（パート職員含む）
・作業療法士	８人	
・言語聴覚士	３人	
・視能訓練士	２人	
・医療技術部門事務職員	８人	（パート職員含む）
・事務系職員	７７人	（パート職員含む）
合　　計	６６２人	（研修医、パート職員含む）

◇当院の病床機能

当院は、４機能の内の高度急性期、急性期病床、回復期病床を保有している。

内訳としては、白血病等の疾患に特化した、白血病治療センター４７床とハイケアユニット病床１４床、合わせて６１床が高度急性期病床である。

緩和ケア病床と人間ドックの病床の２２床は回復期病床、その他の病床２４０床は急性期病床として運用している。

◇当院の担う政策医療

５疾病の内、当院はがん、急性心筋梗塞、糖尿病に積極的に取り組んでいる。

がん診療については、群馬県がん診療連携推進病院の承認を取得し、拠点病院と連携しながら、最先端医療を提供している。

特に、高難度肝胆膵手術を安全に確実に行える施設として、平成２９年６月に日本肝胆膵外科学会修練施設のＡ施設に認定されたことにより、高い信頼が得られている。

循環器内科に於いては、急性心筋梗塞に対するＰＣＩ治療を行っており、救急隊からの搬送患者に迅速に対応する為に、専門医が当番制で夜間の救急患者に対応している。

糖尿病については、平成２８年度より専門の常勤医師１名の採用が出来たことにより、外来診療は勿論のこと、教育入院等の対応を出来るようになり、年々患者は増加している。

５事業の内、救急医療については、救急告示病院並びに前橋市病院群輪番病院として、二次救急を担当している。

災害時における医療としては、災害拠点病院として、災害時の受入体制を整えている。

また、災害派遣チームとして、ＤＭＡＴを２チーム編成し、東北や熊本の災害へ派遣を行った実績がある。

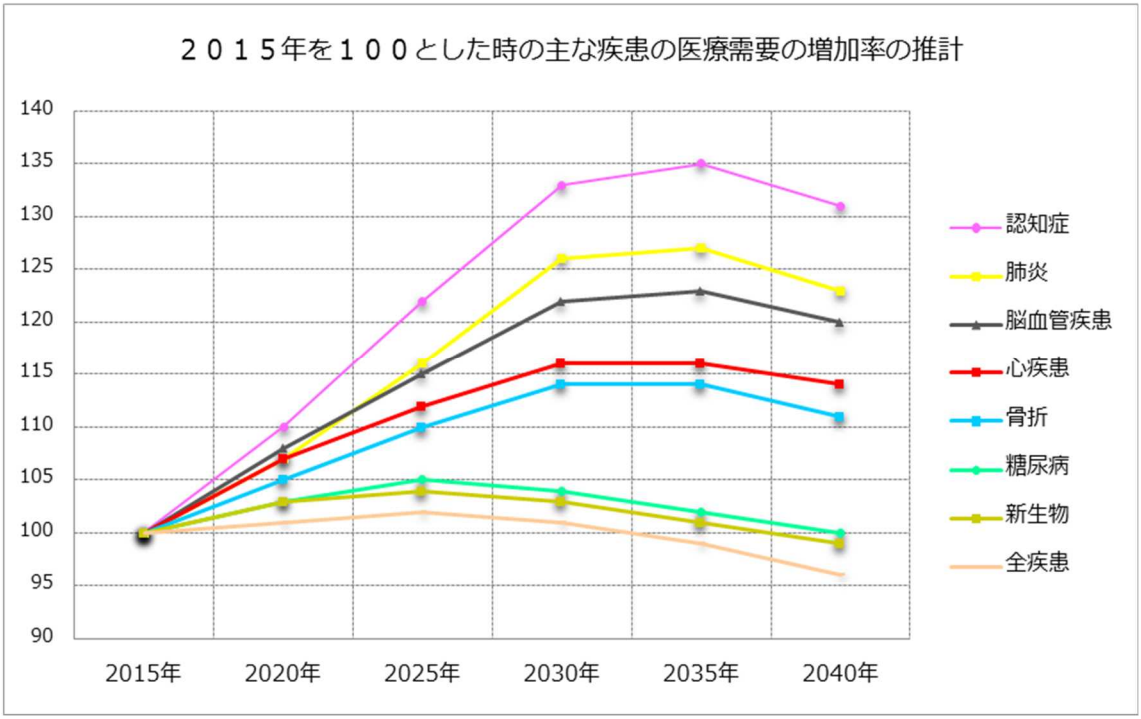
在宅医療については、前橋市西部の中核病院として、地域包括ケアシステムの構築に向け、地域の開業医、福祉施設と連携を取りながら、地域のニーズに応えられるよう協力して行きたいと考えている。

④　自施設の課題

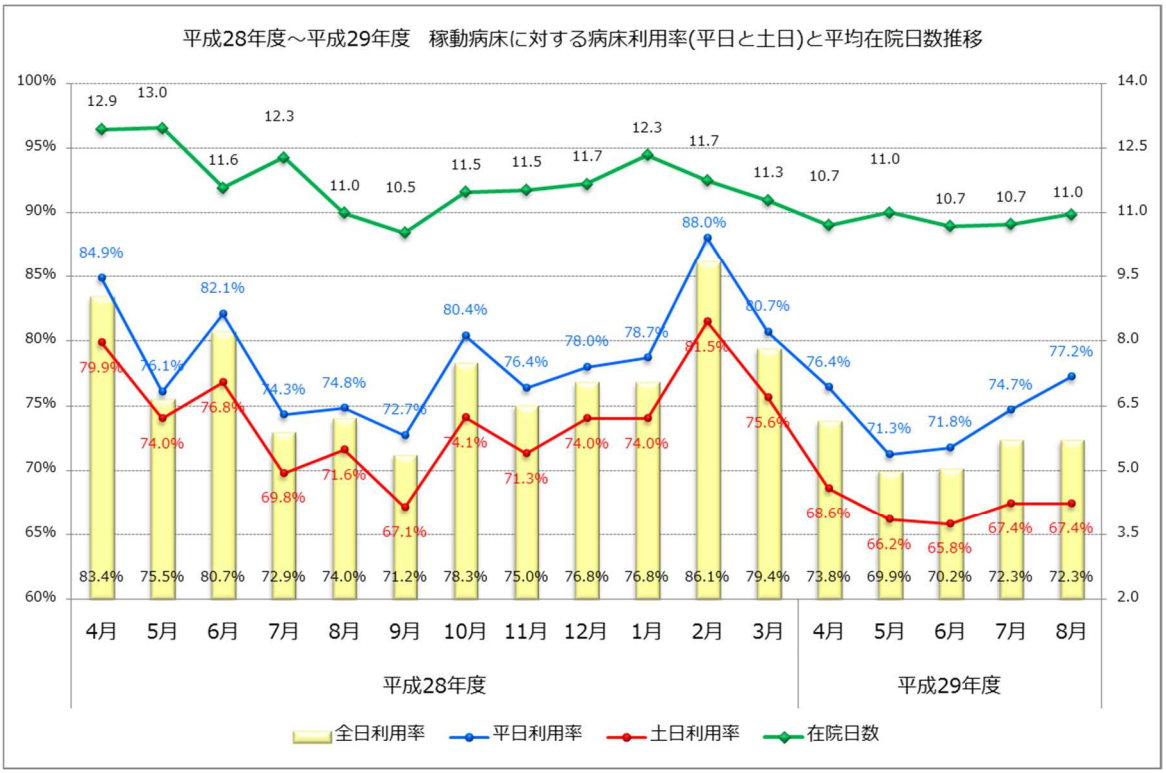
当院の標榜している診療科について、今後１０年間で見込まれる医療ニーズについて、下記のとおり予想している。

診療科	増加する疾患	減少する疾患
血液内科	悪性リンパ腫、急性白血病、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫	特になし
腎臓リウマチ内科 人工透析	慢性腎臓病（保存期）、関節リウマチ等の膠原病	慢性腎不全の人工透析導入件数は減少
内分泌・糖尿病内科 一般内科	糖尿病、内分泌疾患、 感染症（肺炎、尿路感染症等）	特になし
消化器内科	胆道疾患、大腸疾患、 バレット食道癌	胃癌、肝臓癌
循環器内科	心疾患、虚血性心疾患 その他の心疾患	特になし
外科	肝・胆・膵領域手術適応疾患、 大腸癌	胃癌
整形外科	大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、 変形性膝関節症、 肩疾患（腱板断裂等）	先天奇形、 関節リウマチの手術
眼科	白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、 加齢黄斑変性	特になし

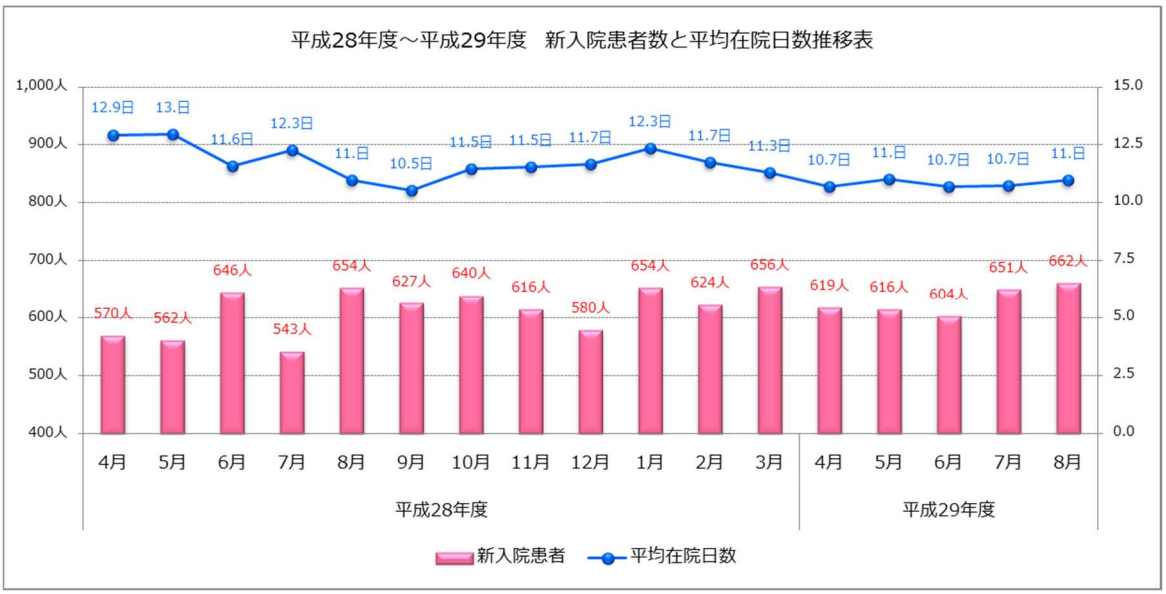
また、２０３０年までは、下記のグラフのとおり、当院が有する診療の疾患については増加傾向にあることから、今後も専門性の高い急性期医療を提供し続ける。



病床の稼動状況については、下記のグラフに見るように、平成２８年度より徐々に在院日数が短縮して来ており、土日のベッドの利用率が益々低下している。



しかし、下記のように、平成２８年度～平成２９年度の８月までの状況を見ても、平均在院日数は減少しているが、新規の入院患者は増加している。
上記も含めて、今後もいかに新規患者数を増やして行くかが課題となってくる。



【２．今後の方針】　※　１．①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

当院は、これまでにも地域医療に貢献するため、二次救急医療、災害拠点病院、更には地域医療支援病院や群馬県がん診療連携推進病院などの要件を確保してきた。
少子高齢化が進む中で、当院の専門性の高い血液内科や高度技術となる肝・胆・膵の外科、手の外科などの資格要件を満たした指導医を確保し続け、基幹病院との連携を緊密に保つことで安定的に医師を確保し、高度急性期、急性期病院としての役割と、地域の開業医等との連携強化を進め、地域医療支援病院に求められる救急医療や地域医療の充実に努める。
更には、訪問看護事業や、地域から求められる地域包括ケアシステムの構築に向けた体制づくりの役割を果たす。
また、済生会の果たすべき使命として位置付けた３本柱である「生活困窮者への援助の積極的推進」、「地域医療への貢献」、「総合的な医療・福祉サービスの提供」を果たして行く。

② 今後持つべき病床機能

現在当院の病院は、高度急性期病床が６１床、急性期病床が２４０床、回復期２２床で運用している。
病床利用率については、急性期病院特有の土日の患者数の減少により、８０％近くで推移しているが、冬場など、感染症患者が多い季節については、現在の病床数でも不足することが多々あることも事実である。
今後も、専門性の高い医療をより多くの患者さんに提供をすることと、高齢化に伴う疾患の変化への対応も考えながら、現在の急性期病床を維持していくこととする。

③ その他見直すべき点

医療技術の進歩や、クリニカルパスの導入により、平均在院日数の短縮が進んでいる。
病床利用率の低下は、在院日数の減少が主な要因となっており、このことから、土日の入院患者が極端に減少する傾向にある。その為、年間平均在院日数は益々低くなっている。
しかし、新規入院患者については年々増加しており、今以上に専門分野での患者の受入れを目指していることから、病床規模並びに病床機能については現状どおりで考えている。
病床利用率を上げる為には、医師の増員が最も効果的であるが、その他にも、手術後の患者のリハビリテーションの充実を図り、土日でもリハビリが行えるような環境整備をすることや、医師以外の医療スタッフによる指導等も積極的に行うことで、医師の負担を軽減し、更なる入院患者の獲得に繋げて行きたい。
少子高齢化に伴い、患者層や疾患も年々変化して来ると考えられる。こうした中でいち早く高齢者の疾患にも対応した医療の提供が出来るよう、認知症などにも対応出来る神経内科医や、今後も患者増が見込まれる泌尿器科に於いても常勤化を目指して行くこととする。
２０２５年の増加率が高いとされる肺炎に対しては、専門性の高い呼吸器内科医師獲得を目指していたが、念願叶い２０２２年度より常勤医師を確保することができた。今後もさらなる拡充に努め、地域包括ケアシステムの構築、地域の医療と介護連携の中心的役割を果たしていきたい。
しかし、医師も高齢化が進む中で、年齢層の若い医師の確保が出来ない場合には、定年後の医師の雇用等も考える必要がある。

【３．具体的な計画】　※　２．①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① ４機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 （令和４年度病床機能報告）		将来 （2025年度）
高度急性期	６１床	→	６１床
急性期	２４０床		２３４床
回復期	２２床		２２床
慢性期	０床		０床
（合計）	３２３床		３１７床

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	（参考） 関連施策等
2017年度			2年間程度で集中的な検討を促進
2018年度			第７期介護保険事業計画 第７次医療計画
2019～2020年度			
2021～2023年度			第８期介護保険事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 （本プラン策定時点）		将来 （2025年度）
維持	呼吸器科医師の常勤化	→	達成：2022年度常勤医師確保
新設		→	神経内科医師の確保 救急科医師の確保
廃止	特になし	→	
変更・統合	特になし	→	特になし

・神経内科、救急科については、群馬大学医局との協議や採用活動等の注力に努めていく。

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

・ 病床稼働率： ８５％以上（現在８１％）
・ 手術室稼働率： ４５％以上（現在４０％）
・ 紹介率： ７５％以上
・ 逆紹介率 ９０％以上

経営に関する項目*

・ 人件費率： ５０％未満
・ 医業収益に占める人材育成にかける費用（職員研修費等）の割合：０．３％

その他：

＊地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【４．その他】

（自由記載）